

# MASH

# NO.1



## 「MASH」創刊の辞

私たちは、「MASH」を出すにあたって大きな自己満足におちいりました。世の中で、自己満足ほど美しい物はありません。汚れた都会の中で私たちは、自己満足の洪水におぼれたいのです。今や世界は第三次世界大戦の恐怖におびえています。今こそ、世界の中の日本を、日本の中の九州を、隠れた眼で見直さなければならないのです。現代文学は、そのカテゴリーにおいてきわめて受動的であり、そのプロセスにおいてきわめて私小説なのであります。日本文学は、角川文庫に乗とられたといっても過言ではありません。ですから、ここで「MASH」が必殺の乱れた猛獣となって世界の中に交わらなければならないのです。

## 「MASH」に怠慢あれ!?

来るべき食料危機に備えて  
オオカミになるぞ!  
プレミアムにやれ!!

三度の食事に **角川ウニコ** カレー  
角川食品工業

目次	
・「MASH」創刊の辞	
・目次	2
・喫茶店巡り	3-8
・ブルーボーイのピンクレポート	9
・文句	10-11
	12-13
・日本ロック界の夜明け	14-15
・追憶のスペースオペラ I 空間の美学	16-17
・雑談 - オートバイ, その他 -	18-19
・マンネリ人間マンガ考	20-21
・男の雑誌	22
・他人紹介	23

表紙 モデル/森 豊 カメラ/新屋健市  
スタイリスト/重村知秀  
レイアウト/岡田和大 武田宏志 横山裕之

## 喫茶店巡り

これは、無計画性に基く、約4軒の喫茶店の、6人の編集員による、生々しい報告である。

### 斜陽館

#### ブレンド

この店は外側もユニークだけど中も負けない程ユニーク。まあ実際に行ってみることだ。損はしないと思うよ。さて本題のコーヒーに移る前に、僕達がコーヒーを飲みに行った時、僕達の横で、タバコを吸っていた三人の女の子達、あなた達は、予備校生だと思うけど、タバコは良くないよ。タバコは記憶力が鈍ってしまうからね。そういうのは大学に入ってからにした方がいいと違うのかな。スペースがないんでコーヒーに話をもどすけど、ここのブレンドコーヒーは少し苦みがあるけど、これもコーヒーらしくていいんじゃないんじゃないんですか。

#### アメリカン

ブランデー、水で割ったらアメリカン……コーヒーを、水で割ったらアメリカン。他に言う事なし。

#### ウインナ

アメリカンに続いて二番目に来た。混ぜずに一口、クリームが口広がる。おいちい。次に混ぜてゴクッと。あちっ。やけどをしました。

しかし、ホントにおいしかったですよ。適度に甘くもあって。

また、この店は実に雰囲気がいい。外から見ると、ここ何店さんと聞きたくするような感じ。内はというと、昔、小学校で使われていたような木の机と椅子。それにどこぞの農家のような天井。梁まで見えた!

#### カフェ・オレ

となりに勉強している女の子がいる。おわんにさとうが入れてあって、木のさじが置いてある。ドリップでコーヒーを立てているのが見える。らくがき帳とクレパスが置いてある。カフェオレをたのんだ。かなり間があって、美人のおネエさんが、コーヒーを持って来た。さとうをろばい入れる。しばらくして、おネエさんが、ろそうを持って来て、立てている。なかなかうまくいかないの、ほくがやると、すぐに立った。やっぱり男やねとと言われて複雑な心境になった。

## シナモン

僕のシナモンは4番目にきた。  
ストレートで…おいしい。好みの味だ、UCCのカンコーヒーと比べると、数段の差がある。

混ぜてみる…相変わらずおいしい。ちょっとすい味があって、香りのほうは、鼻が悪いのでよくわからないがシナモンらしき香りがする。濃さもそんなに濃くない。ちょっと冷めていたのがいたい。きっと熱かったら一段とおいしかっただろう。

## 紅茶

この店は僕にとって忘れられない所で、それは去年の3月15日、僕がこの芸工大の合格発表を見に行った帰りに一たぶん合格していたと思うーこっそりと見に来てくれた親友に押し込まれた店で「やったぞ芸工大!!!」と大きくノートに書きなぐったものだった。ちょっと町並みからはずれているのと、S・インペーダーがないことから行くのがおっくうになってしまい、最近久しぶりに取材に行ったら非常につかしく、またあの頃と、ノートにスタッフの似顔を落書きしている今の自分との違いに驚いたものだ。紅茶はうまい!



## にんじん

### ブレンド

スッキリしたモダンな感じのすてきな店で、僕の大好きなロックが鳴っていた。ブレンドコーヒーは、ややあま味があり飲みやすい。

### アメリカン

ブランデー、水で割ったらアメリカン……「コーヒーを、水で割ったらアメリカン。他に言う事なし。」

### ブレンド

な、な、なんと、コーヒーは、ホットかアイスのみ。

### ココア

凝ったテーブルが置いてある。ガラスごしに、いろんなおもちゃが見える。クリスマスツリーのランプがチカチカ光る。ココアをたのんだ。甘さが足りないと思い、さとうを加える。

## ブレンド

ブレンドコーヒーなので当然普通の味がする。僕はまだ子供なので、UCCのカンコーヒーのほうが好みだなあ。でもこの値段じゃあしかたないかもね。

トイレを見れば店がわかるというが、この手の店としてはまあまあといったところか。

## 紅茶

この店は僕にとって忘れられない所の近くにあつて、それは去年の3月15日……ここはサ店というよりPUBなんよね。しかしスタッフは誰も行ったことがなかったから知らなかったんでワインナーやオーレがなくても仕方ないんよね。まあ紅茶はあったけどこの紅茶はおかわりができて、砂糖を入れると甘くて美味しいんだけど、僕は一言いいたい。せっかくかわいいテーブルがあるのに、せっかく凝ったおもちゃが入ってるのに、ガラスをきれいに拭いておかんとは、魅力半減だよまったく!ちゃんと拭いてね!!

クリエイティブ  
ケルース  
Mukido

宣伝(い)お

**Mukido**

★今 Mukido では 2つのミニ  
コミを発行しております。「海潮  
道(なまの)」と「世紀の  
留學先!」市内お  
び五塚の251まで  
の喫茶店に  
おいてます。

**夢軌道**

★このコミミニコミは、定価0円。これか  
らおいてある喫茶店には、ノートはびるす  
を備えつけてるから、これに  
なんじやかんじやと  
書きまわって下  
さい。

**ほびるす**

お紙  
ほこ  
へ↓  
〒811-02 福岡市東区下知464-4  
土山 功(どやまいでお) by Fair

# クリスタル

●クリスタルは漫画の好きな  
集団による漫画誌です。

6号 発売中  
7号 近日発売

¥250



## ら・ら〜む

### ブレンド

大学のそばにあるのでよく行く店だけ何と言っても、スペースインベーターが二台あるのが良いそれから、ここでコーヒーを注文するとたくさんクリームを出してくれる。ブレンドコーヒーの味もなかなかこくのあるしまった味がする。

### アメリカン

ブランデー、水で割ったらアメリカン…… コーヒーを、水で割ったらアメリカン 他に言う事なし



### ウインナ

オーレの次に来た 砂糖がちよっと多めである 量の方はあまり多くない しかし、この店も悪くない 『夢軌道』もちゃあんと置いてあった 隅っこの方に、スペース・インベーターを初めてしたのもこの店 クーサイン君は、この時以来、この店の顔馴染みになった

## カフェ・オレ

芸工大の人間が多い。コスミックモンスターが置いてあって、人気を集めている。芸工大の画像の2年生がすみの方で、トランプをしている。サイフォンでコーヒーを立てている。カフェオレをたのんだ。

### スプリット

スプリットコーヒーなるものを注文した。

ストレートで…何だかブレンドと同じ味みたい??

ホイップクリームをたっぷり入られて、かきまわさずに飲むとウインナーのようになっておいしかった。しかしクリームを入れたからって混ぜてはいけませんぞよ。



## 紅茶

この店は僕にとって忘れられない所で、それは我々が取材に行った2月6日、生まれて初めて、コスミックモンスターというUFO・TVゲームなるものに巡り会った、僕にとって宿命的、運命的とも言える出会いをとりもった店なのである。それからというものの財産を食いつぶし、家もとられ、妻子にも逃げられ、かわりにサラ金に追われる日々を… そんな事はどうでもいいけど畜生、また行きたいなあ。スペースファイターもやりたいなあー。しかしーかげんあの店にも顔覚えられちゃったしーえーと紅茶はおかわりがあるよ



## 勝手にしやがれ

### ブレンド

明るい雰囲気のある店で、ミニコミがたくさんある

それから、ブレンドコーヒーですが、しっかりとブレンドコーヒーの味がしましたので御安心を



### アメリカン

ブランデー、水で割ったらアメリカン…… コーヒーを、水で割ったらアメリカン 他に言う事なし

### ウインナ

ちょっと苦い が、そのためか非常にあっさりしていた この店も雰囲気が良かった ちょっと狭かったけれども、本日、これはフリントの合板ではなく、本物の木木の使い方がいゝ 実に感じいい

※ウインナを飲む時は気を付けよう 冷たいクリームの下には、熱い、あつーいコーヒーが潜んでいる

## カフェ・オレ

あわたて器のちっごいのが、スプーンのかわりになっていて、一瞬驚く。カフェオレをたのむ。サイフォンで立てているようだ。いつも通り、さとうを3ばい入れて飲む。



モカなので、知っている人が多いと思うがストレートでは、飲んだ時少しのすい味があり、そのあとに、適度ののが味が残る。

ストレートで飲むのが本当だと思うが、僕は甘いのが好きなのでシュガーとクリームをひかえめに入れる。ウン、これでいい、モカのくせ味が薄れてマイルドになった。でも何のために「モカ」を注文したか解らなくなってしまったなあ??

## 紅茶

この店は僕にとって、nr B O O の割引券がもらえた所で、その点においてはスペースインベーダーが2回できるという幸せが得られたわけだが、その紅茶とインベーダーにおける攻撃性と…ええい！今は忘れる、集中集中!! インベーダー退散!!! と、紅茶はというときすがにうまい、感じとして少し苦いようだがそれは砂糖でカバーできる。店の感じもいい。白木の壁なんかイカシてるし、マスターもいい人みたい。無軌道。をはじめ西南なんかのミニコミもあった。ここへ来ると何らかの情報が得られるという勝手にしやがれ。



以上で報告を終る。1日に何軒もの喫茶店を回るのは、非常にカネとヒマのいることを痛感した。4軒しか紹介できなかったが、それぞれの店の雰囲気但至少でも感じ取って頂けたら幸いである。

## ブルーボーイのピンクレポート

18になると、おれはすぐにポルノ映画を見に行つた。今では常連である。おれは今、浪人中で二浪である。浪人して、つくづく考えることは、勉強は継続が問題だということだ。自分に合った勉強をしていれば、成績は自然に上がるもので、いかにそれを続けるかが問題なのだ。おれが二浪しているのは、決して高望みしているからではない。今の受験制度は、一発勝負である。模試では、かなりの成績をとるが、本番で失敗するヤツがたまにいるもので、おれがそうである。

しかし、一年中受験勉強をしているわけではない。気分がダウンするときがある。こういう時は、何をやってもダメである。フラストレーションが、たまっているからだ。特におれのような、ワガママで、自我の強いタイプの人間は、これに弱い。運動して、発散しようとしても、逆効果の場合が多い。こういう時は、フロに入るのが一番だという意見もあるが、おれは

ポルノ映画を見に行く。やっと本題に入ったようだ。

ポルノ映画と言っても、日本で作っているのは、本当のポルノではない。ポルノなら、ポカシは入らないものである。日本では何でもないシーンが、中国ではカットされることがある、という問題がある、つまり中国では、ワイセツに関する規定が、日本より厳しいのだ。しかし、中国でも、解放後30年、愛情問題のもつれからの殺人事件、強姦事件、心中事件等は数限りなく起っている。ポルノを解禁すれば、性的羞恥心を害した青少年が増え、公共の福祉に反する。つまりは、強姦事件がどんどん起こるという考え方は、短絡的すぎると、おれは思っている。ワイセツの観念は、個人によって違うものであり、法律で規制する種類のものではないのである。見たくない人は、見ないならよいのだ。あのポカシがなかったら、おれのフラストレーションが、もっと暗れるのは、言うまでもない。

## 文句.....

日頃から変だ変だと思っていることを言うコーナー。

★

日産が作ってるサニーカルフォルニアという車のテレビの宣伝があるだ〜が。一台の車と九人の人間が出てくるやつだわ。日産はダラか!!! どうみてもあの車には九人も乗れんわ。残りのもんはどげやして行くや。もう一台出せばいいがや。

★★|

今、三橋美智也がやっちゃう激めんの宣伝。いいおっさんが「ボサッとししないで、激れい、激れい」ダラか!!! 少しぐらいDJが人気あると思ってからにいい気になりさがつて、わしゃああいうの一番好かん。人にはそれぞれふさわしいもんがある。あらの出んうちに早くブラウン管から去れ!

★★★|

ソニーのステレオカセットのSir IIIの宣伝。これまたダラか!!! 自分でかってに称号をつけておいて「初めてサーの称号がついた」だと。ダラめ!!! 今までクラシックを聞きたいカセットがあったけんわは○○○を買ったわや。

★★★★

沢田研二が近頃歌っちゃうカサブランカ・ダンディで、沢田がウキスキーを「ブッ、ブッ」と吐きだすだあが。あれはなかなかいい作戦じゃ。ああすれば、沢田のあとで歌うのはきちゃなくていやだ、と誰もが言い、いつも沢田が最後に歌うことができる。いんまに、ステージに小便をひっかけたり、うんちを塗りつけたりする奴も出てくるかもしれんなあ。

★★★★★

江川問題についても一言。なんで江川が巨人に入って悪いんや。てめえらの球団に入ってくれんからって、あら探しをしてつくようなことはやめい!! 特にクラウンファンめが。自分のフランチャイズの球団を簡単に手ばなすような奴がなんで他人のことを言えるか。金がないとは言わせんぞ。ファンの人が一人一人少額でもいいから出して、大企業がバックアップすれば球団の一つぐらい持てるだろうが。その努力をほとんどせず、なんが江川のことを言えるかや。わしは根っからの巨人ファンや。何せ「巨人、大鵬、玉子焼き」世代だ。文句あったら正面きって言えってんだ。その前に条件として、球団を持つことだ。

★★★★★

こないだ映画「ギャラクティカ」を見てきた。センサラウンドが知りたかったけんう。ゴーツとすごい音だった。ありやどうみても宇宙船が飛んでいるというより、墜落しとるような気がする。一諸に行ったO氏(このミニコミで、小説を書いている人)も歳のせいか気絶しそうになっちゃった。こげな映画をつくるアメリカはやっぱ人種がちがうと思うなあ。

★★★★★★

このミニコミの編集長にも一言。もうブルーボーイのピンクレポートなんぞはやめてほしいもんだ。このミニコミは僕みたいのためになることを書かずにやいかん。わかりましたかな!?

★★★★★★★

最後に、何で友人のKには○  
○が.....で、僕は.....なんだが一度ひどい目に会ってしまった。下の絵を見て考えてくらはい

なお、文中のアムファベットは  
イニシャルなどは関係なし



¥1,000,000

身長 157 cm位  
体形 やや細身  
特技 神出鬼没、その他何でもできるので特に記さず  
特徴 とにかく美人  
そして、肌はS君のごとく滑らかでMさんとは比較にならない  
近況 京都市周辺で見たという情報があった

シリーズ 彷徨 (ほうこう)



ある男がいた

1

◇第一態◇ 空才能=SHIGEの場合



彼はアイスクリームが  
好きだった

2



日後 UFOゲームの  
ある店を荒し回った

5

そして、どこかにある  
ユートピアを探し続けて  
いるのだった

3



しかし高得点を  
出せるようになる

6



だんだん情熱を  
失なっていく彼だった

7



冷やかな視線が

そして、台をいつも  
一人占めする彼に群衆の



石を投げられるように  
さえなつた

8



真のユートピアを求めて  
彼はまた歩き出すのであった

10

## 現代ロック考

# 日本ロック界の夜明け

「まわるまわるよ時代はまわる」なんて歌があったけど、本当にここ十年のうちに恐ろしいほど日本は変わってしまった。そして音楽も……。いや音楽は変わりつつあると言った方が良いのかもしれない。と言うのは今までの日本においては音楽を動かしているアーティストが変わっただけで本質はまったく変わってないように思えてしかたないからです。

特にロックについて言えることであるがこれまで模倣と独創の相関関係及び歌謡曲への転落と言うとてつもなく大きな問題を解決しなかったのです。しかしこれは日本と言う国が、イギリス同様アメリカと違って、ロックで生きて行くには大変厳しい国であるので、しかたのないことだったのかもしれない。

日本では今現在ロックは変わりつつあると言うのは、ようやく本当の意味でロックが何らかの形を

つくろうとしていると言うことである。もちろんこの何らかの形は突然現われたのではなく、はじまりがあるのである。その一つがあの「ジャックス」である。十年程前グループサウンズ全盛期の頃、ただきれいで、うすっぺらく、ジャカジャカした音が氾濫していた中で地獄の底からうめくように、おもっくるしく私達に語りかけて来た彼らの歌声は独創性・オリジナリティーに溢れ、まさに衝激的だった。これはあの「はっぴいえんど」にも言えることである。しかし、この二つのバンドは、一部の者から注目されはしたが若者全体をまきこむまでには致らなかった。と言うのは、まだ聞き手の側にロックを聞く耳が出来てなかったからだ。つまり日本では、ロックと言う音楽に対して夜明け前だったのです。

しかし初めにも書いたように、今ようやくその夜が明けようとしているのです。やっと空がしらみ始めようとしているのです。これまでの日本では聞くことの出来なかったピンクフロイド、イエスなどにも共通したグローバルなフィーリングを持つ四人囃子。ひたすら元気いっぱいハードロックで押しまくるバウワウ。元マウンテンのフェリックスパバルディーに認められ、彼と共にコンサートを行ったクリエイション。四人囃子のボーカリスト兼リードギタリストでもあった森園勝敏が参加し

ていたことのあるプリズム。シンセサイザーを駆使し、新感覚のロックと評判の高いイエローマジックオーケストラ。ブルージな感覚の柳ジョージとレイニーウッド。元ファーイーストの喜多郎……など日本ロック界に本当の意味で足跡を残してくれるであろう有望なミュージシャンがひしめいているのです。日本のロック界にもまさに今、陽が昇ろうとしているのです。日本ロック界に栄光あれ！



## 追憶のスペースオペラ I 空間の美学

愛を求めて私は百年間宇宙空間をさまよい続けた。運ばれた運命に逆らうことはできない。しかし母の腕の中で眠り続ける幼児の魂に帰るには、あまりに遅すぎる。心の奥に忘れてしまいそうな過ぎさった日の思い出を、あの星雲の向こうに流してしまいたい。狂いだしそうな銀河が、私の頭の上で悲しい歌を歌い始めた。世界の終わりには、少し悲しすぎる歌だ。でも、私にとって、そんなことはどうでもいいことだ。すべてが消えてしまう今となっては、つまらない感傷に浸っている暇はない。

遠くで聞こえる妖精たちの悲鳴が、銀河を引き裂いた。私の過去の記憶がそれに呼応し恐怖の叫びをあげた。引き裂かれた銀河の傷口から、暗黒の闇の微笑みが吹き出して来た。すべての物が、闇の世界へと帰ろうとしている。闇から生まれた光たちが、再び闇の中へ帰ってゆくのだ。

人間が宇宙の惑星たちを植民地にして以来、彼らは神のようにふるまった。宇宙の沈黙が人間の欲望をかきたてたのだ。欲望は、人

間に偉大な進歩をもたらした。しかし、文明が進歩すればするほど、科学技術は人間を見捨て、やがてあらゆる空間を支配するようになった。そして時間さえも文明は奴隷にしてしまった。

かつて、この空間を支配した偉大な男たち…古代進、宇宙エース、キャプテンハーロック、ウルトラマン、キャプテンフューチャー、トニー・ハーケン、ハイネル、リヒテル、デスラー……………



彼らは正義の味方でも、悪の象徴でもなかった。彼らは、宇宙にとって、侵略者以外の何者でもなかったのだ。彼らは文明の奴隷として宇宙空間で劇を演じたにすぎなかった。

人間の命など、銀河の命に比べれば何と短いことか!! 私は、過去の記憶をふり落とそうとして年老いた身体をゆさぶった。

「そんなことはないわ。」

突然、私の上を通り過ぎていったたくさんの女たちの声が、真空の空間を震わせた。

「私たちが死ねば、宇宙も滅亡するのよ。宇宙は、人間の記憶の中でしか存在できないわ。さあ、勇気を出して……………」

女たちの声を聞いて、無生物化しようとしていた私の肉体が、最後の希望をふりしぼろうと、あえいだ。



# 雑談



—オートバイ・その他—

本当は、  
本当は、こんなミニコミを出すことが  
恥かしいのです。  
親から大学に行かせてもらって、  
それなのに、勉強もせずにこんなのに  
夢中になって。  
親に、社会に甘えている自分。  
その僕が、甘ったれ小僧がミニコミな  
んぞを出そうというのでありますから。  
不愉快に思われる方がいるかもしれ  
ません。  
「すねかじりがあ。」と言われる方も  
いらっしゃるでしょう。  
それに対して、僕は返すことばがあり  
ません。

## この春休み

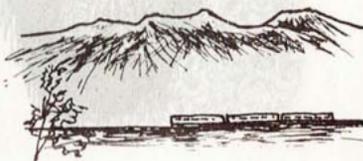
僕は、アルバイトをしました。朝8時  
半から、夜8時まで、大きな工場の一  
角で、一日中、紙をひっちぎっていま  
した。アイスクリームのカップのふた  
キャラメルの内箱など。何日かたつと  
つけている軍手がすり切れたり、それ  
にほこりがすくて、家に帰ると、耳  
の中や、鼻の中に紙ができています。  
ほんとうにしんどかった。

このバイトをしていて、ふっと、何

か、悲しいような、空しいような気持  
ちになることがありました。僕が大学  
生として結構な生活をしているとき、  
この大きな工場で毎日、汗まみれ、ほ  
こりまみれになって働いている人が  
いる。一日中、一年中、同じ仕事。  
何がスペースインベーダーだ。  
何がバイクだ。

先日、「俺たちの交響楽」を見たんで  
すが、そのとき、ほんの一瞬、雪をい  
ただいた信州の山なみが映ったんです。  
映画自体は、勿論よかつたんだけど、  
あのシーン、感動しました。僕のあこ  
がれの信州。行きたいなあ。

「野性の証明」は原作より、テレビの  
方がおもしろかった。万人うけするよ  
うにだいたい手を加えてあつたが、いや  
本当によかつた。最終回の放送を見て  
いた母は、僕の横で涙をボロボロ出し  
ていたよ。



僕がバイクに乗り始めたのは、一昨年  
の九月。家にあったシャリーをなにか  
につけて乗り回しておりました。小さ  
な車体に大きな僕が乗るのだから、あ  
まりカッコがよかつたとは言えません。  
それでも、この画期的な道具に魅力  
を感じましたねえ。

大学に入って、一台乗り換えて、今は  
クォーター（250cc）に乗っています。  
ほんとうに、バイクというヤツは、お  
もしろいですねえ。



どこがおもしろいのかといいますと、  
えー、その一、そうねえ… 全部。

悪路、ステップに立って、バックシ  
ートをぼっこん、ぼっこん上げながら走  
るとき。

高速道路、ものすごい風に目をしばた  
たかせ、涙を出しながら、一抹の恐怖  
感を抱いて走るとき。

「愛車よ、あれが芥屋の海だ」などと  
ひとり、つぶやきながらのツーリング。  
冷たい水を我慢しながらの洗車。  
ほんとにバイクつておもしろい。

でもねえ。よく見かける輩。悲しい  
よ。耳ざわりな排気音、ひざをばつと  
ひらいてヒステリックな運転。徒党を  
組んで町中をとばして回るなんぞは、  
論外。バイクつて、そんなものじゃな  
いだろ。

## マンネリ人間マンガ考

### ①第一回①

このころ月並のことながらインペーに凝ってしまいマンガを忘れつつあるのだが、やはりここでは僕のライフワークであるマンガ。このマンガ関連のことを書こうと思う。但し僕の人間性として「北九州のグズラ」と異名をとるほどルーズな性格のため文章が、支離滅裂、四分五裂、四捨五入となることをわかってチョウライ。

先日、星野之宣の「はるかなる朝」が天神コアの福家書店で、やぁーと手に入った。さっそく彼の手塚賞入選作「はるかなる朝」とやらを読んでみたが、やっぱりごいねえー、さすが入選しただけのことはあると思った。多少のデッサン狂いは誰にでもあるにせよ、ストーリーにおけるアイデアは、これは並の人間ではひらめかんだろう。彼の性質として、彼の最近の「巨人たちの伝説」「これはまかせ！良すぎてあったに本屋ではお目にかかれぬい」なんかからも共通してわかるように、一つの物語をI部（古代）、II部（現代・未来）という風に分ける趣味があるということ。また、世界の七不思議の様な未知の現象をうまいこと根拠つけて引用するという手もよく使う。後者について九産大MOWの北ジョージ氏によると、「一番利用し易い材料なんだボー」とは言いつつが…。某少年ジャンプ誌に「ブルーシティ」が連載されて彼の人気が出てきたようで、少なくとも現在、SFマンガを読む人で彼を知らぬ奴はおらんやろう。何を隠そう僕もまた、熱狂的なファンとまではいか

んにしろ、かなり彼を意識し、また認めているのは事実だ。あの独特なタッチ、さわめて正確な一になったデッサン、格好いいメカ、奇抜なアイデア、どれをとっても魅力のある、新説と呼ぶにふさわしいマンガ家だと思う。ただ、一つの作品に執着しすぎて、なかなか新作を出してくれんものには若干のいらいらを感じないこともないこともある。

星野之宣の作品の中で、僕はやはりさっきも掲げた「巨人たちの伝説」が最高だと思うのでこれについて書いてみたい。

この作品は、第一部では第四氷河期を迎える今から六万年前、高度の文明を築きあげていた巨人族タイタンが自らの超能力で木星と火星の間にもう一つの太陽を造り、氷河期と戦おうとするのだが力及ばず失敗し、滅亡してしまう。そして第二部では近未来（1982年）において、再び迫り来る第五氷河期と戦うために科学の粋を集めて、北極にあるブラックホールから物質を引きだし小惑星なみの大きさになったそれを何発も木星に打ち込み、更にレーザー砲で木星を爆発させて燃える惑星に作り変え、第二の太陽を誕生させることに、ついに成功する、というストーリーだ。クライマックスで「この広大な宇宙にくらべて人間は断じてちっぽけな存在じゃない！ほんとうに偉大で永遠なもの人間！人間の命のつらなりだ!!」と主人公野武は言っている。勿論これが、この作品のテーマだと思われる。

ここで彼は、古代に他の地域より重力が弱いという所に高度の文明のある超能力を使う巨人たち、タイタンの国が存在して、彼らがピラミッドなどの巨大建造物を作ったこと、ピラミッドに地磁気を強める働きがあること、更に北極点がタルタロス、大地軸丸と呼ばれるブラックホールであり、それが移動する時、氷河期がはじまるのだということ等をバックボーンとして設定している。ストーリーの上で、やや大地軸丸を大げさに扱すぎたとい

う感もあるが、なかなか面白いと思う。よくこんなことを考えついたなと感心するばかりだ。なーんとなく、古代と未来の二部に分けたところ、木星が舞台となりコンピュータが狂いだすというくだり、雰囲気的に、「2001年宇宙の旅」の匂いを感じないこともないが、考えすぎだろうか。

またこの作品を読んで、驚いたというか、勉強になったというか、気のついた点を書いてみると、まず北ジョージ氏も言いつつが、作者はハッキリと意識して宇宙空間では効果音を使わないということ。あまりの厳密さに、初めて僕がそれに気づいた時はア然としたものだった。宇宙空間には空気が無いんだから直接音が聞こえるわけないんだけど、実際に宇宙空間に飛び出して無音の世界を体験した奴なんて宇宙飛行士を除いているわけもないし、日頃TVアニメやらマンガ本なんかで、破断音がバオオツと火を吹いたり、スリーナインの気笛がホオーと銀河に響き渡ったり、インペーターがフチンと消えたり、…あの「スターウォーズ」でもラストにデススターがバクコンという破裂しているのだ。そーいえば「2001年宇宙の旅」は、あれは効果音しやっつたんやなかったかな。効果音ヌキでかく語りよったのだ。とにかくそんな風に効果音が使われていることに慣れてしまっているから、まあ効果音あって悪いとは思わない。しかし星野之宣の場合、それがなくていいみたい。それだけ絵で表現できてるんよ。しゅごいね〜。また、時に彼は人物に影を書かないことがある。僕の場合、自分の絵が平面的なもんだからやたらと影をつけるのに…彼はどういつ考えからなんだろう。メ切りで追われて書き入れ忘れたんやったりして。そして彼はこの作品で、コピーを駆使しているのだ。コピーの王者は松本零士なのだけだ、松本氏は縮小、拡大コピーをも操るのだ

## 星野之宣

星野之宣もまた氷づけになっている巨人たちや点描の木星なんかでコピーを使用している。彼の最大の魅力の一つにメカデザインがある。この作品の中では、キャンの操縦する脱出船が何といてもベストだ。レーシングカーを思わせる野武の操縦席もいいし、宇宙船プロメテウスの船内もいい。しかし男襟をモチーフにしたと思われるプロメテウスのデザインはちょっと大胆性に欠ける気がする。また、「ブルーシティ」の時もそうだったが、彼は床に人間を埋め込むというか、床をくりぬいて一人づつ椅子に座らせる趣味があるようだ。そして彼は全体的に、ゴチャゴチャしたメカ一言わずと知れたコピーおじさんなどの…はあまり好まず、シンプル・メカに徹しているのだ。あと忘れてならないのは彼の「手」。彼の書く「手」をよーと見よってごらんよ、表情があるととは思わんね？普通の人やったら軽く見逃してしまうかも知れんが、これはちょっとやさそつで書けるもんじゃないんだ。やっぱり彼はすこいのだ。彼の作品は観察しよったら面白いぞ！ まだまだいろんな工夫が見えてくる。

さて、ひたすら感心しているわけではない。疑問点もあるのだよ。実は古代で、あの巨人たちは全滅したのではなくその時代を脱出した人も全滅するわけで、円盤に乗って超能力で光速限界を超えて時間を飛びこえられるなら、彼らは地球人でないとも考えることもできるわけで、そこいらは一体どうなってるんや？

わあ！いろいろいーかげんなこと書きよたら紙面がなくなってしまうので、最後にこの作品の僕の一番好きなシーンを一つ、ボリスが銃をとり出してサラに言う。「地球だろうが宇宙だろうがこれで君を守るんだよ サラ…」  
「…ありがとう あなた…」と書いてもわっかんないかしらねえ。

# 男の雑誌

プレイボーイ・ベントハウス・イ等は、洋書として書店で売られているが、ハスラーを置いてい店はほとんどない。これは不条である。プレイボーイを見ると、ユー・フナーが、裸女に囲まれグラビアがよく出て来る。ああ趣味の悪い写真ばかり載せら、ベントハウスに追いこされのだ。それに比べて、ハスラー、「性開放」という大目的を持スゴい本なのだ。こういう雑誌つくれるアメリカという国は、る面では、すばらしい国である。日本に目を移すと、週刊誌では、刊プレイボーイと平凡パンチが大勢力である。しかし、両方とグラビアで持っている雑誌である。週刊プレイボーイの方が、ちょっとはおもしろいが、毎週買いくる程の雑誌ではない。隔週出ている雑誌にGOROがある。れこそまさに、グラビアが命の誌であり、「激写」の良し悪しをれ行きが決まる。しかしGOは、SFを連載してくれるの気に入っている。月刊誌では、ールガイが比較の人気がある。り雑誌は、いやに突っ張った意

見を書いていて、特集がおもしろい。あと月刊誌は、いろいろとあるが、今は書かない。

性開放を主旨とする雑誌が実は、日本にもある。あの自販機で売られている雑誌の中に、メッセージというのがあって、日本での個人レベルの性開放を主旨として、発行されている。個人レベルの性開放というのは、わかりにくい、最終的には、日本の性開放を目指しているらしい。

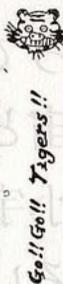
自販機の雑誌は、意外とおもしろいがあるものである。いやに残酷だったり、パロディばかりだったり、スゴい大目標を持った本だったりするのである。ついでに書いておくと、自販機の雑誌の出版社で人気のあるのは、エルシー企画とアリス出版で、両方とも池袋にあり、池袋はエロ本のメッカと言っても過言ではない。



## \*\*\*\*\* 他人紹介 \*\*\*\*\*

自称SF作家 岡田和夫先生

彼は、中学生のころSF作家になりたかったそうです。ですから、今、このように自分の小説が本になることに大きな自己満足を感じています。阪神ファンの彼にとって昨年の最下位はショックでした。去年1年間彼が読売新聞を購読したむくいであると、ひどく反省しているのです。



あの人は、凡人には近づきたいほど高貴で、頭脳優秀な方です。本当に、あの人がいてこそ何でもできるのです。ただ一つの欠点と言えはすぐ人のあらを探して文句を言いたがることです。しかし、これは星占いでも明らかであり、あの人の運命だとも言えるのです。あの人の顔は……見せません。すでにこの本のどこかには必ずあるはずだから。

彼は“マッシュ”で音楽を担当しています。彼は輝く日本の星を目指してひたすらギターを弾き続けて来ました。でもまだ、その夢は達せられていませんが、ここで音楽批判をすることによって大きな自己満足の感に浸っているようです。

彼、横山裕之。20歳。あまり喋る方ではない。背は高いが、お世辞にもハンサムとは言えない。セルロイドの眼鏡をかけて、髪は刈り上げている。オーケストラの部員でありながら、最近は全然練習してないみたい。あれで、いっちゃろうかねえ。薄汚れたGパンをはいて、黒い単車を取り回しています。見かけたら声を掛けてやって下さい。

彼は殆んど毎日、私の所にやってきました。彼は私を前になると、目の色が変わり、呼吸が乱れ、激起状態に陥るのです。そして彼は、私の体内に丸くて堅いものを挿入すると、小さな突起に触れ、それから体を大きくくねらし、行為をします。でも彼は浮気者で、他の所でもあの行為をよくするのです。…私ですか？私はエリイゼのSPACE INVADERです。

私は森豊の古くからの友人で森山秀吉です。しかし、まだ彼のことがよく分からないのです。宇宙人だと言う人もいますが、私はミュータンだと思えます……

MASH MASH MASH MASH MASH MASH MASH MASH MASH MASH

森豊です。上に何か書いてますがもちろんウソです。信用しないで下さい。次回はSFについて何か書こうと思っています。お楽しみに。

## ★ あとがきを少し

人それぞれ、自分だけの内面性というものを持っていると思います。それは小宇宙と呼んでもいいでしょう。その小宇宙の一部を、私達6人は、いろいろな形をとって、ここに発表しているわけです。ストレートな意見もあれば、ディスプレイされた主張もあります。しかし、それは決して私達の自己満足に終るものではなく、読者へのメッセージであるはずです。だから、この本を読んで、共感していただけたら、とてもうれしく思います。